

## マスコミ各位

平成31年4月22日（月）

沖縄県保健医療部地域保健課 結核感染症班

担 当：久高、岡野

電 話：098-866-2215

# 大型連休を前に注意すべき感染症について

## 1 概要

ゴールデンウィークは、レジャーなど野外活動を行う方や海外へ渡航される方が多い時期です。これらの活動の中で感染症にかかることなく、安全で快適に過ごすことができるよう、県内や海外で注意すべき感染症及びその予防対策について、情報提供します。

## 2 県内の川でのレジャーでもご注意を（レプトスピラ症）

レプトスピラ症は、病原性レプトスピラ（*Leptospira interrogans*）を起因病原体とする感染症です。病原性レプトスピラは、ネズミやマングースなど野生動物の腎臓に潜んでおり、尿中に菌が排せつされ、それにより汚染された土壌や水と接触する際に、皮膚の傷、鼻や目の粘膜を通して感染します。ヒトからヒトへの感染はありません。

県内では、主に河川でのレジャー等の際に感染したと考えられる患者の発生がみられます。2016年は集団事例の発生もあり、統計のある2003年以降、最多の年間報告数となっています。

臨床症状：頭痛、発熱（38℃以上）、筋肉痛・関節痛、結膜充血。重症になると、腎機能障害、黄疸などの症状が現れ、治療しないと死に至ることもある。

潜伏期間：3～14日

治 療：ペニシリンやストレプトマイシンなどの抗生物質が有効とされている。

感染症法分類：4類感染症

### 【予防方法】

1. 皮膚に傷がある場合は、河川での遊泳を控える。皮膚に傷がある場合、感染しやすくなることが知られている。
2. 河川や滝などの生水はそのまま飲まない。
3. 水田、山林で作業をする場合は、長靴や手袋を使用し、土や水との直接的な接触を避ける。
4. 捕獲したネズミなど、素手での野生動物との接触をさける。

※川遊びをした後や、畑、水田、山林などで作業した後、3～14日以内に発熱、頭痛、筋肉痛などの症状がでたら、すぐに医療機関を受診し、川遊びなどの状況を伝えてください。

### 【参考】年別レプトスピラ症患者数

年	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
全国	17	24	34	42	15	22	26	30	29	48	33	76	46	31
沖縄	7	4	21	28	7	10	7	6	7	28	13	43	22	15

※全国のお客数は、沖縄のお客数を含む

### 3 山歩きトレッキング野外作業などでの注意（ダニ媒介性感染症）

「つつが虫病」は、2008年以降、宮古保健所管内にて発生し、2016年は、2008年以降、最多の年間報告数となっています。沖縄本島においては、2010～2012年に「日本紅斑熱」の発生があり、2016年には「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」の県内初事例が発生しました。

これらはいずれもダニに咬まれることにより、ダニ体内の病原体に感染します。そのため、県民の皆様は、ダニに咬まれないための予防策の実施をお願いします。

#### 【つつが虫病とは】4類感染症

つつが虫病は、つつが虫病リケッチア（*Orientia tsutsugamushi*）を起因病原体とし、山野に入り病原体を保有するダニ（ツツガムシ）に刺されて感染する。ヒトからヒトへの感染はない。

臨床症状：発熱（38℃以上）、リンパ節腫脹、発疹、刺し口。

潜伏期：5～14日

治療：テトラサイクリン系の抗生物質等による治療。一般に予後良好。

発生状況：我が国では北海道を除く全都府県から患者が報告され、ここ数年は年間300～400人の患者が毎年報告されている。

#### 【重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは】4類感染症

SFTSは、SFTSウイルスを起因病原体とし、病原体を保有するマダニに刺されて感染するのが主だが、患者血液・体液との接触による感染も報告されている。

臨床症状：発熱、消化器症状（食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）が多くの症例で認められ、その他頭痛、筋肉痛、意識障害や失語などの神経症状、リンパ節腫脹、皮下出血や下血などの出欠症状など

潜伏期：6～14日

治療：対症療法。致死率は6.3～30%と報告されている。

発生状況：我が国では西日本を中心に、平成29年3月29日の時点で230名の患者が報告されている。

#### 【日本紅斑熱とは】4類感染症

日本紅斑熱は、リケッチア・ジャポニカ (*Rickettsia japonica*) を起因病原体とし、病原体を保有するマダニに刺されて感染する。ヒトからヒトへの感染はない。

臨床症状：高熱、発疹、刺し口が主要な徴候。

潜伏期：2日～10日

治療：本症を早期に疑い適切な抗菌薬（テトラサイクリン系の抗生物質等）を投与することが極めて重要。

発生状況：我が国では特に太平洋側の温暖な地域にみられ、発生時期に地域差がみられるものの、全国的に春～秋の長い間注意が必要である。

#### 【予防方法】：ダニに咬まれないことが重要です。

1. 山野に入る際には、肌の露出を少なくし、防虫スプレーを適宜使用する。
2. むやみに地面に腰を下ろしたり寝転んだりしない(座る時は敷物を使う)。
3. 脱いだ服を草むらに放置しない。
4. 帰ったらすぐに入浴(シャワー)する。
5. 着用した服は使い回さず、その日で洗濯する。
6. 山林や野原に立ち入って1～2週間後発疹や発熱の症状が現れたら、すぐに医療機関で受診する。
7. 吸血中のダニを見つけた時は、無理に取ろうとするとダニの一部が皮膚内に残る可能性があるため、できるだけ医療機関で処置を行う。

#### 【参考】県内のダニ媒介感染症発生状況

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	合計
つつが虫病	1		1	2		1	2	4	10	5	3	29
日本紅斑熱			1	1	1					1		4
SFTS									1			1

※2008年の「つつが虫病」1例は県内初報告例

※2010年の「日本紅斑熱」1例は県内初報告例

※2016年の「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」1例は県内初報告例

## 4 麻しん（はしか）

麻しんは、感染力が非常に強く、小児が感染すると肺炎、中耳炎、脳炎などの合併症を起こすことがある感染症です。

現在、全国各地で麻しん患者が確認され、また海外では麻しんが流行している地域も多くあります。これから大型連休を控え、県外、海外から人の行き来が増える中、県内ではいつ患者の発生が起こるか分からない状況が続いています。

発熱、発疹等の症状が現れた場合は、「外出を控える」「マスクを着用する」といった周囲の方への感染を防ぐ配慮をお願いします。また、医療機関を受診される際もマスクを着用し、公共交通機関の利用を可能な限り避けてください。

麻疹の予防には、MR ワクチンを2回接種することが有効です。1歳及び小学校入学前のお子様の定期予防接種は確実にいきましょう。成人の方で2回接種歴がない方も予防接種を受けてください。

臨床症状：発熱、せき、鼻汁、目の充血、麻疹に特徴的な発疹。

肺炎、中耳炎、脳炎などの合併症を引き起こすことがある。

潜伏期間：10～12日間

治療：特異的根治療法はなく対象療法

感染経路：空気感染（麻疹ウイルスの空気中での生存期間は2時間以下）

感染症法分類：5類感染症・全数把握

発生状況：2018年は県内で3人（4/22現在）、全国で406人（4/14現在）の患者が報告されている。

## 5 海外へお出かけの方へ

渡航前には、『厚生労働省検疫所 FORTH ホームページ（海外感染症発生情報）』等で渡航先の感染症発生情報を確認してください。また、母子手帳で過去の感染歴や予防接種歴を確認し、感染歴や予防接種歴がない場合や不明な場合は予防接種を受けてください。

帰国時に体調に不安がある方は検疫担当係官へ相談し、帰国後に体調を崩された方は、マスクを着用し、公共交通機関の利用を可能な限り避け、早期に医療機関を受診し、渡航先や現地での活動内容などをお伝えするようにしてください。

海外においては、国内ではみられない感染症が、流行している地域があります。食事の前や宿泊施設へ戻った際には、必ず「手洗い」「うがい」をするといった基本的な対策に加え、事前に現地の感染症の発生状況を調べ、下記の対策をとるようにお願いします。

### 1. むやみに動物にふれない。

犬や猫、その他の野生動物が感染源となる狂犬病や、ヒトコブラクダが感染源となる中東呼吸器症候群（MERS）など。

### 2. 防虫スプレーの使用や長袖の着用など、蚊、ダニへの対策を行う。

蚊に刺されることにより感染するデング熱やチクングニア熱、ジカウイルス感染症など。  
ダニに刺されることにより感染するクリミア・コンゴ出血熱など。

### 3. 予防接種が受けられる感染症に対しては、事前に医療機関に相談する。

麻疹や風しんなど。また、黄熱のように予防接種証明書（イエローカード）を携帯していないと入国できない国があります。

### 4. 生の食べ物、水は飲食しない。

A型肝炎やE型肝炎、コレラ、赤痢、腸チフスなど。

## 6 県内外の感染症情報について

沖縄県感染症情報センター

<http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/kikaku/kansenjouhou/home.html>

海外で健康に過ごすために（厚生労働省検疫所 FORTH）

<https://www.forth.go.jp/index.html>

海外で注意すべき感染症について-大型連休（いわゆるゴールデンウィーク）を前にして-

<https://www.mhlw.go.jp/topics/2006/04/tp0425-1.html>

海外の感染症に関する情報提供サイト（厚生労働省）

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/gw01/01.html>